

## 農地・農業用施設の被害を想定した初動対応訓練

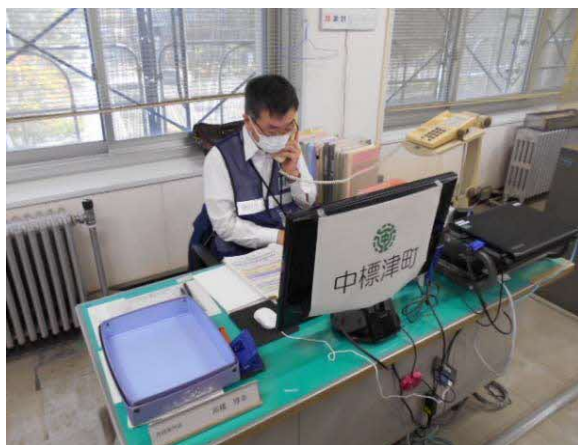
令和3年8月31日、中標津町及びJA中標津・JAけねべつと合同で「農地・農業用施設の被害を想定した初動対応訓練」を実施しました。

近年、大雨や地震などの大規模自然災害が頻発・激甚化していることを踏まえ、発生直後の初動対応や情報伝達力の向上を目的に、昨年度から実施しています。今年度は、台風の影響により日雨量217mmの降雨があったとの想定で訓練が始まりました。

リエゾン（現地情報連絡員）を仮想役場とした振興局執務室内に配置するなど、新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの対応となりましたが、被害状況の収集や情報伝達等の初動訓練を通じ、問題点など課題の抽出を行いました。



リエゾン（現地情報連絡員）への派遣命令



迅速な情報収集に努めるリエゾン（仮想役場）

### 《主な課題》

1. メールでの情報伝達の際に、別途必要となる開封パスワードの送信を失念し、伝達に時間を要した。
2. メールでの伝達だけでは、相手に伝わるのが遅くなることがあるので、確認の意味も含め、電話の併用や周りへの声かけが必要と感じた。

机上訓練ではあるものの、実際の発災を意識した対応を心がけましたが、リエゾンについては「現地に実際に派遣し、その時間感覚や現場の臨場感を肌で感じられるような実動訓練が必要」と、改めて感じたところです。

今回明らかとなった課題等については、次回の訓練に向け、少しずつ改善する必要があると考えています。



ホワイトボードを活用し、被災状況を時系列で整理